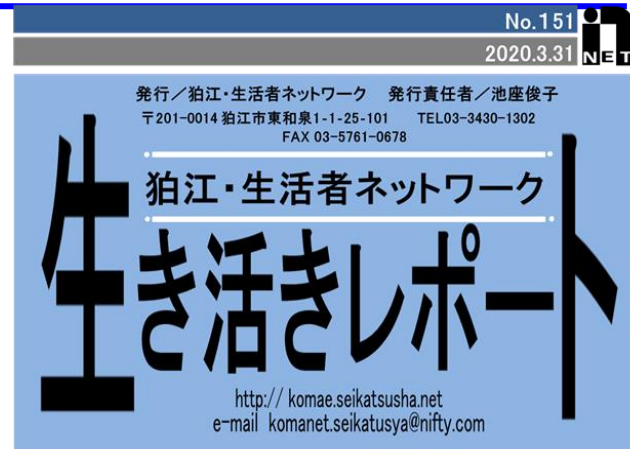


● 狛江市のコロナ対応  
● まつざき淑子の議会報告  
● ドウマンジュ・恭子を都議補欠選に擁立



## ◆ 狛江市の新型コロナウイルス感染防止

東京都知事の「感染爆発の重大局面」との報道等により市民の不安は増すばかりです。

狛江市対策本部はまず市主催の大規模イベントの中止や食事提供事業の自粛を実施。小中学校を臨時休校とし、子育て家庭や子どもたちが利用する公共施設も閉鎖されました。この間学童に通う児童には昼食を提供し、外遊びのできない小学生に3日間のみですが分散登校による校庭開放などの対応を行いました。さらに「狛江市新型コロナウイルス感染症専門家協議会」を設置。公共施設閉鎖中もあいとびあセンターでの休日診療は実施されます。少しでも感染リスクを低減するために、市民に対して積極的な情報提供を求めます。



台風19号の経験から発災時にも役立つ大人のための救命救急講座に参加し、心肺蘇生に取り組むまつざき淑子

## ◆ 議会報告

第1回定例会が2月20日より3月26日まで開かれました。

### <福祉基本条例の全部を改正>

社会福祉法の一部改正に伴い、地域共生社会の実現に向けた取組を推進するため、市の独自規定として福祉・保健のみならず住宅・教育・コミュニティ関係部署の連携が明記されました。複雑に社会問題が絡み合った8050問題など制度のはざまにある課題にも対応していくそうです。

### <人権を尊重しみんなが生きやすい狛江をつくる基本条例の制定>

前市長のセクハラ、パワハラ問題により失墜した市への信頼回復を目指し、狛江市が人権を尊重し、人権侵害を許さないまちとするために制定されました。施行に当たり人権尊重推進会議には人権、ハラスメント問題に深く関わってきた専門家や人権侵害にさらされている当事者の参加を保障し、救済など実効性のある条例になるよう提案しました。

### <狛江市国保税の値上げに反対>

2017、18年度の値上げに続き20年度より2年おきに保険税を約2%値上げし、14年間で国保会計への繰入金を解消する計画です。

税率や解消期間の設定には低所得者への負担軽減を考慮し、景気変動などに際しては見直しが必要と考えます。

## ◆ 新年度予算審議

2020年度予算について、狛江・生活者ネットワークは組み替え案に賛成し、組み替え案を除く一般会計予算原案に賛成しました。

### <財政健全化>

狛江市は2013年度以降、中期財政計画(財政健全化計画)で起債額は元金償還額をこえないよう規律を設定し、抑制した財政計画を立ててきました。その結果市債残高(借金)が減り、基金(貯金)が増え、経常収支比率も改善してきました。市民税は市の重要な財源で、2018年度決算で125億円、2020年度予算では127億9千万円と増加を予測しています。これは市税の徴収率が国立市と並んで多摩地区26市中トップであること、転入市民による人口増加と安定収入が大きな要因で、財政計画に基づく財政運営は一定の評価ができます。今後は狛江市を魅力のある、住みたいまちとしていくために、低金利である今、老朽化の進む公共施設の整備や緑地保全を積極的に検討し、災害に強く、人にやさしいまちとすることを要望します。



谷戸橋付近の野川に気泡がわきだしている。外環工事の影響か?住民と視察する右からまつざき淑子、元調布市議ドウマンジュ・恭子、練馬区議やない克子

### <国民健康保険>

狛江ネットは国保税値上げに関しては、一般会計からの繰り入れを減少させることが財政健全化には必須と考えていますが、いつ収束するのか見当がつかない新型コロナウイルスの影響で経済的打撃を真正面から受けている低所得の加入者への対応が必要と考え、値上げ幅を4割削減した組み替え修正案に賛成しました。これに先立ち3月9日市長に「新型コロナウイルスの影響による、税金徴収の柔軟な対応についての申し入れ」を行いました。

### <人権尊重、職場環境の改善>

2019年度にハラスメント相談は外部窓口で9件、内部窓口で2件あり、2018年11月に設置された相談窓口の運用を評価します。早期に職員研修を実施し庁内での人権意識を高めるとともに、職場環境の改善をはかるよう要望します。

### <福祉有償運送>

移動や登校支援に欠かせない市民の足として活動しているハンディキャブの事業継続が厳しい状況ですが、利用者保護のため運行件数維持に対し予算が計上されました。

### <コミュニティ・ソーシャル・ワーカーの増員>

あいとびあ地域包括支援センターエリアに続き、こまえ苑エリアにも配置されます。市民の困りごとや地域課題を発掘し、必要な支援を関係機関につないだり、住民間の助け合いを促進します。

### <保育の質の向上>

幼児教育・保育の無償化の対象から除外されている自主保育に対し、市独自の補助事業を拡大することは多様な保育の保障として評価します。しかし認証保育園や新設学童においては子どもの外遊びの環境を保障することが課題です。

### <行政運営、まちづくりへの市民参加>

4月末にオープンする子育て・教育複合施設「ひだまりセンター」は、統括責任の権限で関係部署の横断的連携によるワンストップ相談、切れ目のない支援の実現を期待します。この組織運営の手法を全庁的にも拡大してほしいものです。

また市民参加に関しては、どのようにすれば市民の関心が得られるか、市民の声が寄せられるか、また関心があること以外でも、市民生活に繋がっていることは多いので、情報を効果的に伝える工夫が必要です。

形式的に参加を保障するだけでは市民参加という民主主義は形骸化するだけです。

市民が主体的に検討しパブコメや提案を出したとしても、それを受け取った行政や、答申を出した委員会や審議会でも十分に議論する時間も機会も準備されていないのが現状です。市民自治を進める観点から、市民参加の在り方を再考するよう求めました。

\*一般質問は2面に掲載しています。

元気に遊ぶ自主保育の子どもたち

